



# 特集 ① 島 模 様

株式会社 しまの会社 代表取締役 村上 律子 (越智郡上島町)



県内で二位。何でも一番は嬉しいものの。しかしこのたびは、耕作放棄地であります。

私どもの幼いころは、ここ弓削島では山の上まで耕作し、島全体が畑という風景でした。

ただ、島も隣の因島の造船所が造船景気で忙しくなると、島の男性たちは、鍬や網を捨てサラリーマンに。

そして、お母さんは農業、お父さんは、造船工。という家庭が増えてくるにつけ、段々畑は荒れていき、これに高齢化の波がさらに拍車をかけていきました。

私たちは、平成11年ころから、耕作放棄地周辺で摘み菜ウォッチングをグリーンツーリズムの一環として実施し、島内外の人たちで摘んだもの



コブミカンハウス

で調理もして楽しんできましたが、平成22年に、特定非営利活動法人しまの大学を設置し、地域の課題解決の一つとして、荒れていた畑を借り受け約6,000㎡に約9,800本のコブミカンを植栽しました。うち200本ほどは、島起こしグループ「しまの大学」の学生さんが。ただ、地中海など暖かいところで育つこの木、日本での栽培方法が確立されておら

ずなかなか手ごわい。現在県の6次産業化チャレンジ事業の助成を得ながら栽培方法の教えを乞うています。

また、当初菜種油をといた計画で、約2,000㎡の畑を借り受け菜種を撒きました。が、搾油機の段取りが付かず一面美しい黄色い花畑を見るだけに終わりました。

その翌年から、尾道市の帆布メーカーとの連携による綿栽培に移行し、毎年夏には美しい花を咲かせ、秋には白い綿をたわわに付けます。これの種をまくところ、綿を取獲するところは募集し、体験型にしています。綿はハンカチ等に、また、茎は染色の材料にと捨てるところがありません。

これら畑の世話は、92歳のおばあさん先頭に8人のお年寄りが、開墾はリタイアされた元気な70代のお兄さん方10人が都合の良い時にお世話してくれます。

またこの方々は、お年寄りのおうちへ、ご要望があれば、庭の草取り、剪定、家の掃除とよく動いてくれます。時給をお支払しておりますが「この年で雇ってこれてありがたい」と。

また、今、2015年に立ち上げた会社「㈱困ったことはなんですか」で、所有者と使用者のお見合い事業と称し島の耕作放棄地へ太陽光発電ソーラーパネル設置事業も展開しています。この事業も、島で広い農地をお持ちの方々が待っています。

今、島ではIターン希望の若者をよく見かけます。気楽にやっつけられます。しかし、住居と仕事が必要。お年の方々は良いにしても、若者は仕事がないと困り、帰って行く人も多いようです。行政においても、空き家対策に併せて、Iターンの受け入れに取り組んでいます。その先の話を、先日も担当課としたところです。

そこで、耕作放棄地の解消に取り組み農地を用意することで、Iターン者の気持ちも楽になるように思います。することがあるということ。

民間で山林と化している畑の再開発を思っています。高齢化率40%の島ですが、地

域が行政と一緒に、ともに島の耕作放棄地問題を真剣に取り組めば難なくできるように思います。

我々が行っている製塩事業に限って言えば、塩づくりの燃料の薪確保ということで耕作放棄地解消対策には、悪くはないと思っております。我家も両家の農地は荒れています。まずこれらから取り掛かり薪の確保、農地の再生を図り、野菜作りやコブミカンの移植等思いを馳せています。

また、新しい事業として都会から見晴らしのいい場所へ狭小住宅の別荘をという提案、広いお花畑の提案もあつたりすることから、耕作放棄地の有効活用は、その気になれば無理な話ではなく、スロークライフを希望されて来られるIターンの方にはピッタリかと。開墾するところからお手伝いいただければもつと愛着が湧くのではと。

今、島へ来られている方々の数人に畑を借りるお手伝いをさせていただきましたが、やる気のある若者は、上手に

柑橘、米、野菜作りをしています。

耕作放棄地の解消は、地域ぐるみで問題意識を持って取り組みれば理解と協力が得られ可能になるのではと思っております。

美しいふるさとを子供たちに残すためにも早く立ち上がるべきなのではと思っております。



綿畑